学習三原則 —— 生活を正す　目標を持つ　継続する

育友会報

学校法人飛騨学園 高山西高等学校

〒506-0059　岐阜県高山市下林町353
TEL0577-32-2590/FAX0577-33-9911

発行　第52号
高山西高等学校 育友会 文化委員会
URL https://takanishi.ed.jp/

ISO14001認証取得

「よろこびを力に…」

育友会長　田中 謙太郎

日頃頃より、育友会活動につきまして深いご理解と温かいご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、先日来よりご依頼させていただきました私学助成金の請願署名活動につきましても、皆様方のお力添えにより今年度も目標数を超える署名が集まる見通しとなりました。ご多忙の中、ご対応くださいましたこと、心より感謝申し上げます。

4月には、200名を超える新しい仲間が加わり、令和8年度の高山西高校がスタートしました。学業はもちろんのこと、部活動、生徒会活動や探究飛騨への取り組み、6月には体育祭、ISA生徒との交流など、生徒の皆さんも多忙な日々を過ごされたことと思います。そして夏休みに入っても、部活動や補習授業への参加など、ますます精力的な日々を過ごされていることと存じます。生徒の皆さんの頑張りにも頭が下がる思いですが、それに寄り添い、日々ご指導くださる先生方の存在あってこそ、子供たちのモチベーションが持続されているのだと思います。先生方にも心より感謝申し上げます。

さて、表題の「よろこびを力に」は、30年前のアトランタ五輪・女子マラソンで銅メダルを獲得された有森裕子さん（現日本陸連会長）の言葉です。アトランタのレース後インタビューでの「自分で自分をほめたい」のコメントの方が、我々世代の中では印象に残っているかもしれませんが、当時、スポーツ関連の雑誌コラムで目にした「よろこびを力に」は、当時の私自身が非常に感銘を受けたフレーズでしたので、今回のタイトルとして使わせていただきました。

バルセロナ、アトランタと2大会連続のメダル獲得、そして、日本におけるプロランナーの第一人者として活躍された有森さんですが、陸上競技を始められたのは高校からで、大学時代も目立った戦績は残されていません。実業団への入団も当時の小出監督への直談判の結果、認められたそうですが、23歳で初マラソンの日本女子最高記録を樹立、その後の活躍は先述の通りです。ただ、活躍の裏では度重なるケガとの戦い、チームとの軋轢など、困難の多い選手生活だったそうです。

『自分が自分で決めたことや、夢を叶えたいという強い思いが心にあれば、そのために人はいくらでも頑張れます。チャンスは皆平等に与えられていて、必死に努力して手を伸ばしていれば、きっと夢を掴むことが出来るのです。「いつか叶う」「いいことないかな」としか思っていなければ、せっかくのチャンスも気付かずに通り過ぎてしまう。しっかりとアンテナを張り、前に進み続け、そして、喜びを力にして夢を掴む・・』有森さんの言葉です。

近年、スポーツに限らずあらゆる場面で「リベンジする」という言葉をよく耳にします。カジュアルに使用されることが多くなった言葉ですが、英語でいうところのRevengeは、「報復や復讐」の意味合いで、決して前向きな言葉ではありません。時には、悔しさ、怒りの感情をバネにして頑張ることも必要だと思いますが、喜びを力に変えて、結果に繋げること、モチベーションを維持し続けること、とても尊いことだと思いませんか？

生徒の皆さんには、常に応援してくれる先生方、そして家族の存在があります。その応援を喜びに、力に変えて突き進んでほしいと思います。そしてもう一つ、「応援したくなる」人になってください。「感謝」を言葉にできる人は確実に増えてきています。もう一歩進んで、「感謝」を行動に表してください。それできっと「応援したくなる」人に近づけると思います。

先生方、ご家族の皆様には、子供たちへの「前向きな」後押しをお願いいたします。それが、子供たちの「よろこび」そして「力」に繋がると信じております。私自身も一保護者としてこの言葉をあらためて心に刻みたいと思います。

「危険から守る」

校長　谷口 正彦

日頃より本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

今回は「現在の子供たちを取り巻く環境」に目を向け、「如何にして子供たちを守るべきか」について皆様方と一緒に考えてみたいと思います。現在、特に危険性が指摘されているものに、以下のものが挙げられます。

①SNSを介したネット上のトラブル

これは本校だけでなく、全国的にもその危険性が指摘されています。例えば、他人を誹謗中傷する文章、画像・動画の製造やその拡散など、軽い気持ちで行ったことが「いじめの重大事態」または「犯罪」に発展するケースが多くあります。SNSを介した「いじめ事案」は学校だけで対応することは難しく、警察にその対応をお願いしなければならないことをご理解ください。

②闇バイト(犯罪)に巻き込まれるリスク

先日、本校で高山警察署・生活安全課長をお招きして、「防犯講話」を実施させていただきました。そこで課長が生徒たちを前にして強調されていたことは、「闇バイトはバイトではなく犯罪です。」という言葉でした。また経験や知識の浅い高校生がその「手先」として犯罪グループのターゲットになっていることを、私たちは改めて認識すべきだと思います。闇バイトに関しては「都会の問題で田舎は関係ない」などと考える方々が多いようですが、「高山でいつ起きても不思議ではない」という意識を持つことが大切だと思います。

③性的画像や動画(児童ポルノ)に関するトラブル

交際相手に送ってしまった画像が、別れた後に拡散されたり、友人同士の悪ふざけで撮った画像がSNS上で拡散されたりしてしまう等、深刻な被害につながるケースが多いようです。また「児童ポルノ製造・所持および拡散」は犯罪行為に当た

ります。同事案が発覚した場合は、速やかに警察に連絡することになります。

④ ゲーム依存症、課金のトラブル

「オンラインゲーム」に関する問題は小学校や中学校でも報告されていますが、高校生も例外ではありません。（スマホを介した）オンラインゲーム依存により、昼夜逆転の生活に陥る危険があります。またゲーム内で発生した「課金」により、保護者に多額の請求がきてしまうケースも報告されています。

上記以外にもさまざまなリスクはありますが、すべて「スマートフォン」がその入り口になっていることを私たちは改めて認識することが重要だと思います。我々教職員は生徒のスマホを無断で監視することはできません。唯一「生徒のスマホ使用」を監督できる立場にいるのが、保護者の皆様方なのです。（自分の子供が）「スマホで何をしているのか？」「最近の様子で変わったことはないか？」「交友関係は変わっていないか？」等を日頃から目を配っていただき、何か変わったことがあれば学校と一緒に対応していきましょう。

本校のキャッチフレーズに〝生徒が自慢の学校〟とあります。日々の彼らの取り組みや活躍を見るにつけ、「本当に素晴らしい子が多いな」と感じております。大事なお子様を守るためにも、保護者の皆様方のご協力をお願いいたします。

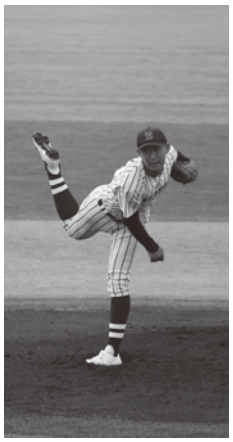
「保護者の皆様へ」

教頭　横田 匡司

保護者の皆様には、日頃より本校の教育活動に対し、格別のご理解とご支援を賜り、心より深謝申し上げます。本校は「夢叶える」「生徒が自慢の高校」という理念を掲げ、私立高校としての使命と責務を自覚しながら、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育を推進してまいりました。保護者の皆様、地域の皆様の温かいご協力のもと、教職員と生徒が心を一つにして歩んできた日々は、本校の発展を支える揺るぎない基盤となっております。

高校生活は、生徒が自らの未来を切り拓くための重要な第一歩であり、人生の礎を築くかけがえのない時期です。生徒たちは、日々の学習や部活動、学校行事を通して自らの殻を破り、挑戦し、仲間と支え合いながら成長していきます。その姿は、私たちに深い感動と誇りを与えてくれるものであります。今後も、生徒一人ひとりが将来の夢の実現に向けて不断の努力を重ね、人間として大きく成長してくれることを心より期待しております。

今年度は２０３名の新入生を迎えました。定員を超える生徒が本校を選んでくれたことは、在校生が学習・部活動・地域活動など多方面で示してきた成果が高く評価され、本校の教育活動が地域社会に確かな信頼を得ている証左であると受け止めております。私立高校としての特色ある教育が、地域の皆様から厚いご支持をいただいていることを改めて実感しております。



西高校らしさが詰まった これまでの学校行事

ここまでの学校行事についてご報告申し上げます。

1年生は、昨年度に引き続き「乗鞍青少年交流の家」にて新入生研修を実施いたしました。本校の歴史や校風への理解を深めるとともに、初めて出会う仲間との交流を通して、クラス内に新たな絆が芽生える大変有意義な研修となりました。高校生活の門出にふさわしい、充実した時間となったことを嬉しく思います。

5月13日には、全校で高山市内研修を行いました。校外に出ることで、生徒たちは学校では見せない新たな表情を見せてくれました。高山市の魅力を再発見し、地域の文化や歴史に触れることで、地域社会について深く考える貴重な機会となりました。地域とともに歩む学校として、今後もこうした学びを大切にしてまいります。

6月16日には体育祭を開催いたしました。準備期間が限られていたにもかかわらず、生徒たちは創意工夫を凝らしながら準備を進め、特に3年生は卓越したリーダーシップを発揮してくれました。応援合戦では、サブリーダーの躍動感あふれる演技、団席の一体感、そして完成度の高いマスコットなど、どれも臨場感に満ちた素晴らしい取り組みであり、観る者を大いに魅了しました。競技では「部活動対抗リレー」や「選手リレー」が大いに盛り上がり、西高校らしい規律の中にも熱気が満ちる〝体育祭となりました。結果は、マスコットでは青団・黄団が同率1位、応援合戦は黄団が1位、総合成績は赤団が６３０点で1位となりました。順位はつきましたが、どの団も甲乙つけがたい素晴らしい取り組みであり、全校生徒の心に深く刻まれる体育祭となりました。平日開催にもかかわらず、今年度は過去最多となる約６５０名もの保護者の皆様にご来場いただきました。温かいご声援とご支援に、改めて心より御礼申し上げます。皆様のご協力があってこそ、体育祭は大きな成功を収めることができたと実感しております。

なお、9月2日には西高祭（文化祭）を予定しております。体育祭同様、生徒主体で企画・運営を進めており、より充実した内容となるよう準備を重ねております。ぜひご来場いただき、生徒たちの創造力と情熱をご覧いただければ幸いです。

それぞれの目標にむけ最後まで頑張り続けた昨年度の進路実績

本校のキャッチフレーズである「夢叶える」は、生徒たちが自らの努力によって未来を切り拓く姿を象徴する言葉です。昨年度も、生徒たちは就職・進学の両面で素晴らしい成果を残してくれました。就職希望者17名（公務員希望者含む）は、全員が希望する企業から内定をいただきました。企業の方々からは「西高校の卒業生は真面目で責任感が強く、粘り強く頑張ってくれるため、安心して任せられる」「現場での活躍が顕著であり、ぜひ今後も西高生に来てほしい」など、ありがたいお言葉を多数いただいております。卒業生の努力、そして日頃の生徒の姿勢が高く評価され、企業からの求人も非常に多くいただいております。

進学においても、4年制大学218校（うち国公立36校）、短期大学11校、専門学校26校に合格しました。大阪大学、金沢大学、岐阜大学、明治大学、関西大学など、難関大学にも複数合格者を輩出しております。それぞれの目標にむけて、努力し合格を勝ち取ってくれました。「受験の天王山」といわれる勝負の夏のまっただ中ですが、これからの努力で大きく伸びる可能性は十分にあります。3年生の生徒諸君には、最後まで諦めることなく、より一層の努力を期待しています。

活気に満ちた部活動とその実績

令和8年度も、岐阜県高等学校総合体育大会をはじめ、多くの大会が開催されました。生徒たちは一戦一戦に全力で挑み、勝利を信じてプレーしました。試合に出場する選手だけでなく、出場できなかった仲間たちも懸命に声援を送り、一丸となってチームを支える姿は、まさに青春そのものであり、大変感動的でありました。特に3年生にとっては、部活動を通じて得た経験が、これからの人生において大きな糧となることでしょう。今後のさらなる成長を心から期待しています。

全国高校総体（近畿総体）には、本校から3つの部活動が出場いたします。剣道部は女子団体（岐阜県総体7連覇）と個人で3名、レスリング部は個人で4名、アーチェリー部は個人で1名が出場します。全国の舞台での活躍を期待し、全校で応援しております。大会結果は本校ホームページやInstagramにて随時更新いたします。

東海総体にも多くの部活動が出場しました。情報ビジネス部は全国制覇の実績を持ち、今年も全国制覇を目指して努力を続けています。ウインドアンサンブル部も県大会・東海大会・全国大会を目指し、日々研鑽を重ねています。硬式野球部は惜敗しながらも、今後の可能性を感じさせる戦いを見せてくれました。

本校が掲げる「夢叶える」「生徒が自慢の学校」という理念は、単なる標語ではなく、私たち教職員が日々の教育活動の中で不断に追求し続けている信念であります。生徒一人ひとりが自らの可能性を信じ、努力を重ね、仲間と支え合いながら未来を切り拓いていく姿は、教員である私たちにとって何よりの励みであり、学校という場が持つ尊い価値を改めて実感させてくれるものです。現代社会は、急速な変化と複雑化が進み、若者を取り巻く環境も大きく様変わりしています。こうした時代にあってこそ、学校は生徒にとって「安心して挑戦できる場」であり、「自らの力を試し、磨き、伸ばす場」でなければなりません。本校は私立高校としての柔軟性と独自性を生かし、生徒の個性と可能性を尊重しながら、未来を見据えた教育をさらに深化させてまいります。また、教育は学校だけで完結するものではありません。保護者の皆様のご理解と温かいご支援があってこそ、生徒たちは安心して学び、挑戦し、成長することができます。日々の生活の中で生徒を支え、励まし、見守ってくださる保護者の皆様の存在は、学校にとってかけがえのない力であり、教育の大きな柱であります。改めて深く感謝申し上げます。本校は、これからも生徒一人ひとりの夢の実現に寄り添い、学力の向上はもちろん、豊かな人間性と社会性を育む教育を推進してまいります。生徒が自らの未来に希望を抱き、胸を張って社会へ羽ばたいていけるよう、教職員一同、情熱と責任をもって指導にあたる所存です。どうか保護者の皆様におかれましては、今後とも本校の教育活動に対し、変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

《全国高校総体出場（近畿総体）》
○剣道部…団体（岐阜県総体7連覇）、個人　3I太田君、3H川崎君、3L横山さん
○レスリング部…個人　3L圓山君、3K今井さん、3K直井さん、2K井田さん
○アーチェリー部…個人　2I田上君

《東海高校総体出場》（　）内は結果
○レスリング部…個人　2L柏木君、3L圓山君（グレコローマン3位、フリースタイル3位）、3K直井さん（フリースタイル3位）、3K今井さん（フリースタイル3位）、2K井田さん（フリースタイル3位）
○アーチェリー部…男子団体
○陸上部…七種競技3H平田さん、砲丸投げ2H蒲さん
○卓球部…女子団体（ベスト8）
○剣道部…男子団体（1位）、女子団体（ベスト8）
○ハンドボール部（ベスト8）
○バスケットボール男子（ベスト8）

「選択」

1年保護者　田中 みさ

長男が高校生になって、親として子供の進路が正しかったのか、間違いだったのか、ほんの少し自問自答することがあります。

息子は家でも外でも老若男女問わず、誰とでも話す社交性に明るくポジティブな性格とコツコツ努力をする子で、「勉強しなさい」などはほとんど言わなくてもやる子でした。親ばかですが、わが子ながらいい子に育ってくれたなぁと思います。（笑）

小学2年生から始めた野球も中学生になって硬式チームに所属し、土日はどっぷり野球中心の生活。仲間や指導者にも恵まれて、片道1時間以上かけて練習に行く日々でも、楽しいとは言うが行きたくない、辞めたい等は一度も言ったことはありませんでした。それもあってそのまま高校生になっても野球を続けるのかと思っていました。

ところが中学3年生の夏頃まで別の高校を志望していたところ、私の勧めもあって西高校のオープンキャンパスに参加し、その後志望を西高校の特Ⅰに、そして部活もしないと自ら決めました。

大きなきっかけとなったのは、英語に興味を持ち始め、中学3年生の時に参加した高山市のスピーチコンテストでアメリカへ行った事だと思います。ずっと行きたがっていた海外でホームステイをし、短い期間でなかなかできない経験をたくさんさせてもらいました。そこから留学がしたいと言うように・・・。西高校はグローバル教育にも力を入れていることもあって、そんな彼にはとても魅力的な高校に映ったんだと思います。

先日テキサス州サンアントニオから留学生が来るということで、息子に懇願されホストファミリーとして受け入れをしました。受け入れの前まで毎日課題を多めにして貯めこんでいた姿や、留学生と一生懸命英語で話そうとする姿がとても印象的で、受け入れてよかったなと思いました。そんなこんなでまだ入学して数カ月とは思えないほど濃い西高校生活を送っています。

西高校を勧めたこと、特Ⅰに行くと決めた息子。毎日家でも頑張って勉強している姿や友達と日曜日も学校へ行く姿をみて、まだ始まったばかりの西高校生活ですが今までの「選択」は正しかったと思うし、これからまだまだしなくてはいけない選択も親子で正しいものにしていこうと思います。

「感謝を胸に、最高の舞台へ」

2年保護者　井田 衛吾

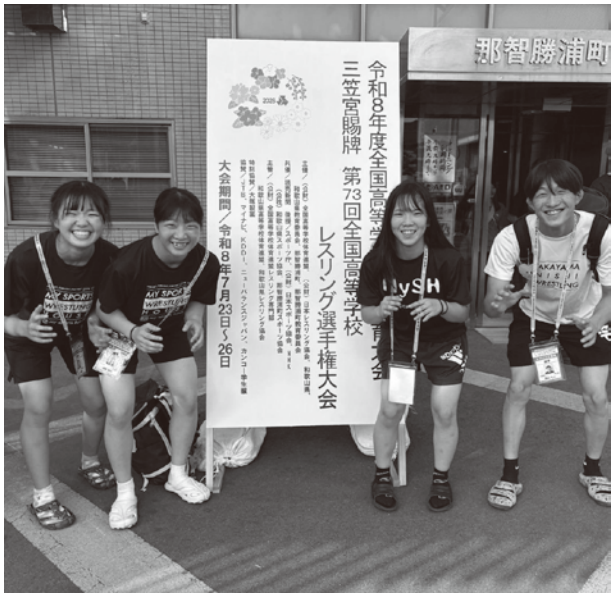
「バク転ができるようになったらレスリングやめるからね」―それが、小さな体に大きめのTシャツを着て初めてマットに上がった頃の娘の決意でした。当時は体力も無く、泣いてばかり、それでも指導者の先生方が根気強く、愛情を持って向き合ってくださったおかげで、絶対に諦めない強い心が育まれ、小学校時代には、全国大会で入賞を果たすまでに成長しました。この時期に全国の舞台で切磋琢磨し、高めあったライバル達との友情は、今も娘にとってかけがえのない財産となっています。

しかし、道のりは決して順風満帆ではありませんでした。中学校時代は周囲の実力が伸びる中で思うような結果が出ず、勝てない悔しさや焦りに一人涙する苦しい時期が長く続きました。見ている親としても声をかけあぐねる日々でしたが、あのとき「辞める」と言っていた娘は決して辞めるとは言いませんでした。

そんな苦悩を乗り越え、高山西高等学校に入学させていただき現在に至ります。この学校の生活には心地よい「メリハリ」があり、授業中は学業に集中し、部活動になると全員が真剣に打ち込む。この徹底した切り替えの環境があるからこそ、娘も無理なく学業と部活動を両立させることができているのだと思います。学校関係者の皆様には日頃からの熱心なご指導とサポートには感謝してもしきれません。

そして何より感謝しなければならないのは、幼年の頃より指導していただいている先生方であります。結果が出ない苦しい中、娘に日々寄り添い、決して見放すことなく、誰よりもその可能性を信じ粘り強く声をかけ続けてくださいました。その献身的なご指導は、孤独なマットの上で闘う子供達にとって最大の心の支えであり、挫折を乗り越える強い精神力を養う人間教育そのものでした。その結果インターハイ連続出場というプレッシャーも笑顔に変えてはねのけることができました。

高校での競技生活もあと一年を残すのみとなりました。多くの皆様に大切に育てていただき、最高の仲間と掴み取った全国の大舞台です。これまでお世話になったすべての方々への「ありがとう」という感謝の気持ちをしっかりと胸に携えて、まずは今回のインターハイのマットの上で、自分が信じてきたレスリングを出し切り、悔いのない最高の試合をしてほしいと思います。そして高校生活最後の一年間、大好きなレスリングを笑顔のまま全力で駆け抜けてくれることを心から願っています。



「目標に向かって」

3年保護者　林　秀明

息子が高山西高校に入学してから、早いもので2年3ヶ月が過ぎました。

本人の一生懸命な姿を見る限り、これまでは充実した高校生活が送れていることと思います。そうした生活が送れるのも、優しく熱心な先生や気の置けない友人のおかげだと思っております。

息子は、良くも悪くも好奇心が旺盛で、色々なことに興味が湧く性格です。そして、目標を決めたらひたすら突き進む子です。中学時代は水泳に打ち込む日々で、勉強は全くしない子でした。

中3の夏休みのある日、行きたい高校の話がありました。ただ、当時の成績では到底いける学校ではありませんでした。しかし、行くと決めたら譲らない性格です。本人もやる気を出し、徐々に勉強時間が増え、少しずつですが成績も上がり始めましたが、当落線上を行ったり来たりするぐらいでした。そんな冬の初め頃、担任の先生から勉強に打ち込むなら高山西高校がいいと勧められました。そして、高校も大学もゴールではなく、就きたい職業やなりたい社会人を想像して、進学先を決めたほうがいいとアドバイスを受けました。大好きな水泳を続けながら高校に通い大学を目指すか、水泳は諦め勉強1本で大学を目指すか、本人はすごく悩んだと思いますが、最終的には将来のことを考えて水泳は断念し、高山西高校を受験することに決めました。

幸い高山西高校に合格することができ、希望した特Ⅰクラスに入ることができました。入学後も色々なことに興味が湧き、ホームステイの受け入れや、アメリカ語学研修にも行きました。アメリカに友人ができたことは、息子にとってかけがえのない財産になったと思います。今でもSNSで連絡を取り合っているようで、これからももっと交流が深められたらいいと思います。私たちも異文化の子を受け入れるのに、食事や身の回りのことなど不安や心配も多かったですが、共に生活できたことは、かけがえのない貴重な経験ができたと感謝しています。

高校1年生の時に「将来は社会福祉士になりたい」と話がありました。早い段階で目指す将来像を決められたため、大学のオープンキャンパスへの参加や受験する大学をどこにするのか絞ることができたのはとても良かったと思います。そのおかげで、目指す大学ができてからは、毎日集中して勉強に励むことができています。行きたい大学を目指すなら更なる努力が必要ですが、きっといい結果を迎えることができるでしょう。

社会福祉士の仕事は、色々な分野で活躍できる職種であり、とてもやりがいのある仕事だと思う反面、責任も重く精神的な負担やプレッシャーが同時にある大変な仕事だと思いますが、これまでと、そしてこれからの経験や学びできっといい社会福祉士になってくれると信じています。

高校生活も残り7ヶ月ほどとなりましたが、これからも友人たちと切磋琢磨し、素晴らしい将来に向かって、精一杯悔いのない学校生活を送ってください。

育友会活動報告

〈 2026年度 前期(4月～8月) 〉

4月 7日／育友会入会式
新1年生203名とその育友会員を迎える。

4月22日／第１回育友会役員会

5月13日／岐阜県私立高等学校保護者連合会
第１回常任幹事会 岐阜・十八楼

5月14日／育友会総会

5月29日／岐阜県高等学校PTA連合会定期総会
オンライン会議

6月10日／岐阜県私立高等学校保護者連合会通常総会
岐阜・十八楼

7月～8月上旬／私立高等学校補助金増額署名依頼

「夢にむかって」

1年K組　田口 亜弥

私は西高校で過ごす三年間を、夢をかなえるための大切な時間にしたいと考えています。部活動と勉強の両立ができる環境の中で日々、仲間と高め合っています。部では挨拶や返事、などの礼儀や時間を守る、余裕を持った行動をするといった、人としてのあり方を大切にする環境があり、それらを大切にしている仲間がいます。私はそのような環境で仲間と共に励み、夢に向かって充実した日々を送っています。

私は姉の影響を受けて、小学校一年生からバドミントンを始め、今年で十年目になります。練習は厳しいことがたくさんありますが、大会でだんだんと結果を残せるようになりました。高校では地区の中で大きなライバルとなる高校があります。個人のレベルが高く、最近は勝つことが難しいことを聞いていて、西高校のチームの一員として私も戦いたいと思うようになり進学を決めました。それでも高校での練習はこれまで以上に内容が濃く、体力や技術の面で大変だと思うことが多くあります。しかし、私以上に頑張る仲間の姿を見て自分自身を奮い立たせ、困難を乗り越えようと努力しています。

また、高校での勉強もより難しくなりました。授業の進度も早く、復習や予習の積み重ねの大切さを実感します。部活で疲れてしまい、家庭学習を完全にできる日が少なくなってしまいます。勉強においても仲間の大切さを感じます。西高校では特に似た目標を持った仲間と高め合うことができています。早くから進学に向けた意識をもつことができているし、そんな仲間と三年間支え合ったり学びあったりできることは幸せです。常に上をめざして誰よりも努力を怠らない人でありたいです。私には教師になるという夢があります。中学生の頃に勇気を持って行動することの大切さを教えてくださる素敵な先生に出会いました。今は学力をつけることに加え、相手への言葉遣いや思いやりなど人としてのあり方を大切にしています。

私は西高校だから入学してよかったと感じています。初心を忘れず、これからも夢をかなえるため努力を積み重ねていきたいです。

「継続することの大切さ」

2年F組　前名 凛斗

私は西高校の特進Ⅰクラスに入り毎日勉強に取り組んでいます。入学した当初は、生活の大きな変化や、今までやってこなかった勉強をしないといけないことなどで、少し体調を崩してしまうことなどがありました。しかし、西高校の特進Ⅰクラスに入ったからにはやらなければいけないといった気持ちや、クラスの仲間もきっとやっているといった気持ちがあり、私も勉強に取り組むことができました。

中学生の時は勉強にほとんど取り組まずに過ごしていたため、授業が始まったときなかなか授業内容を理解することができませんでした。その中でも得意教科を見つけようと勉強をしたり、定期テストで高い点数が取れるように勉強したりしました。その結果、どの教科も自分の中では納得のいくような点数を取ることができ、私の自信に変えることができました。

しかし、定期テストで取れたからと言って、模試で点数が取れることはありませんでした。はじめの頃は問題慣れをしてないこともあり、なかなかどの教科も点数が伸びることはなかったです。解答を見れば納得できる問題やケアレスミスも目立ち、ここを解けていればもっと点数が上がったのにと思うことも多くありました。そんな中点数が上がってきたきっかけとなったのは、一年生の後半にあった数学のクラス分けテストです。このことをきっかけに私は数学の勉強をたくさんしました。ここではじめはなかなか思うようにできませんでしたが、諦めずに頑張った結果、αクラスに入ることができました。その後にあった全統模試で数学は入学して一番はじめに受けた全統模試の点数から70点ほど伸び、更に2年生になった最初の全統模試では30点ほど伸び、入学して100点ほど伸ばすことに成功しました。今は英語や国語を課題としており、数学と同じように勉強をしていけるようにしたいです。

この経験を通してすぐに結果には現れないかもしれませんが、諦めずに続けていけばどこかで伸びるということを信じて、これからも勉強を続けていけるように頑張りたいです。

「悔しい気持ち」

3年L組　横山 紗来

私は中3の時、高山西高校への進学を決めきれずにいました。それは、部活動に自分がついていけるか、親元を離れて生活できるか、不安があったからです。しかし、実際に見学し、同じ目標を持つ仲間と共に剣道に打ち込む先輩方の姿を見て、私もこんなふうになりたいと思いました。ここで自分を成長させたいと思いました。

しかし、入学後は思うようにいかず、なかなか結果が出ない日が続きました。選手に入れず遠征や試合に出ることすらできない日々は、想像以上に辛く悔しい毎日でした。何から頑張ればよいのかわかりませんでした。たくさんの応援を背負い堂々と戦う先輩方、選手として活躍している同級生の姿を観客席から見ていて、いつも強い憧れと悔しさを感じていました。

私がこの苦しい時間を乗り越えられたのには2つの理由があります。

1つ目は支えてくださった人の存在です。一年生の冬。先生から「ここで諦めたらだめだ。強い気持ちをもった紗来を待ってる。」と言われ、自分がいつの間にか選手を諦めていたことに気づきました。先輩にも「まだ間に合うよ!」と言っていただき、応援してくれている人がいる事に気づき、その人のためにも自分のためにも、いつか選手になって活躍する時が来るまで自分を信じて頑張ろうと思いました。

2つ目は「剣道ノート」です。うまくいかない日も何かを掴んだ日も、試合で負けた日、勝った日も変わらず書き続けてきた日誌です。このノートを読めばその時の悔しい気持ち、嬉しい気持ち、覚悟。全てが鮮明に思い出せます。諦めそうな時、不安な時、試合前など何度も何度も読み返し目標を思い出しました。今、ファイルに挟みきれないほどに分厚くなった剣道ノートは私の成長の証であり自信です。自分の積み重ねがどんな困難も乗り越えられる自信になりました。

予選を勝ち上がって掴み取ったインターハイの切符。たくさんの人の支えのおかげであり、そして苦しい時間があったからこその結果です。インターハイでは、今までずっと応援し続けてくれた家族、共に困難を乗り越えてきた仲間、厳しく暖かく導いてくださった前川先生と綾先生への感謝の思いをもち、「日本一」という結果と試合をする姿で恩返しをします。頑張ってきた自分を裏切らないためにも、必ず力を出し切ります。

高山西高校での全ての日々・経験・出会いは私にとってかけがえのない財産です。

令和8年 部活動速報 〈前期〉

各種全国大会

●ＪＯＣジュニアオリンピックカップ･全日本レスリング選手権大会
男子個人グレコローマンスタイル　80Kg級　柏木 大吾さん（2L）　第3位

●ＪＯＣジュニアオリンピックカップ･ジュニアクイーンズカップ
レスリング選手権大会
女子個人　49Kg級　井田 彩夏さん（２Ｋ）　ベスト8
59Kg級　今井 七緒さん（３Ｋ）　ベスト8
61Kg級　直井 詩空さん（３Ｋ）　ベスト8

東海高等学校総合体育大会

●レスリング
男子フリースタイル　55Kg級　圓山 礼心さん（３Ｌ）　第3位
男子グレコローマンスタイル　55Kg級　圓山 礼心さん（３Ｌ）　第3位
女子フリースタイル　50Kg級　井田 彩夏さん（２Ｋ）　第3位
→インターハイ出場
57Kg級　今井 七緒さん（３Ｋ）　第3位
→インターハイ出場
62Kg級　直井 詩空さん（３Ｋ）　第3位
→インターハイ出場

●剣道　男子団体　優　勝
女子団体　第5位
●男子バスケットボール　ベスト8
●ハンドボール男子　ベスト8
●卓球　女子団体　ベスト8

岐阜県高等学校総合体育大会

●レスリング
男子学校対抗戦　第3位
男子フリースタイル　55Kg級　圓山 礼心さん（３Ｌ）　第1位
→インターハイ･東海高校総体出場
80Kg級　柏木 大吾さん（２Ｌ）　第3位
92Kg級　古谷 虎大さん（１Ｉ）　第3位
男子グレコローマンスタイル　55Kg級　圓山 礼心さん（３Ｌ）　第1位
→全国グレコ選手権大会･東海高校総体出場
80Kg級　柏木 大吾さん（２Ｌ）　第2位
→全国グレコ選手権大会･東海高校総体出場
92Kg級　古谷 虎大さん（１Ｉ）　第3位
→全国グレコ選手権大会
女子フリースタイル　50Kg級　井田 彩夏さん（２Ｋ）　第1位
→東海高校総体出場
57Kg級　今井 七緒さん（３Ｋ）　第1位
→東海高校総体出場
62Kg級　直井 詩空さん（３Ｋ）　第2位
→東海高校総体出場

●剣道　男子団体　準優勝　→東海高校総体出場
女子団体　優　勝　→インターハイ･東海高校総体出場
男子個人　太田 壮獅さん（３Ｉ）　第1位
→インターハイ･東海高校総体出場
川崎 鉄生さん（３Ｈ）　第2位
→インターハイ･東海高校総体出場
青木 航太朗さん（２Ｈ）　第3位　→東海高校総体出場
信國 主弥さん（３Ｉ）　第5位　→東海高校総体出場
女子個人　横山 紗来さん（３Ｌ）　第2位
→インターハイ･東海高校総体出場
吉本 実優さん（３Ｋ）　第5位　→東海高校総体出場
大野 夏鈴さん（２Ｌ）　第5位　→東海高校総体出場

●アーチェリー　男子団体　準優勝　→東海高校総体出場
女子団体　第3位
男子個人　田上 翔晴さん（２Ｉ）　第5位
→インターハイ出場
笠下 勇絆さん（２Ｈ）　第7位

●陸上　男子　４００ｍＨ　宮下 拳史郎さん（２Ｌ）　第8位
女子　七種競技　平田 聖奈さん（３Ｈ）　第3位
→東海高校総体出場
砲丸投　蒲 結月さん（２Ｈ）　第6位
→東海高校総体出場
３０００ｍ　田中 千晶さん（３Ｇ）　第7位

●男子バスケットボール　準優勝　→東海高校総体出場
●女子バスケットボール　第6位
●卓球　女子団体　準優勝　→東海高校総体出場
●ハンドボール男子　第3位　→東海高校総体出場

西高祭

令和8年 9月2日 開催

テーマ

がむしゃら
我夢者楽

いよいよ待ちに待った西高祭の季節がやってきました！今年のスローガンは「我夢者楽」です。「我」という字に込められた「一人一人が主役となって楽しむ」という想いを胸に、一年に一度のお祭を夢中になって楽しみ、最高の舞台を共に作り上げましょう！1年生の個性光る教室展示や、2・3年生が魂を込めて作り上げる劇など、準備期間を通じて皆で助け合い一つのものをつくり上げる過程こそが西校祭の醍醐味です。一人一人の主体性が輝く最高の西校祭を、皆でつくり上げましょう！皆さんの熱気あふれる展示やステージ、そして笑顔に出会えることを心から楽しみにしています！

編集後記

まず、育友会報の発行に際して、ご多忙の中、原稿を執筆いただいたすべての方々に感謝申し上げます。スーパーエルニーニョ発生の予想から始まり、FIFAワールドカップ2026を経て大いにあつくなった今日この頃、そんな暑さにも負けず、生徒たちは学校生活を生き生きと励み、楽しんでおります。西高祭（文化祭）や研修旅行など、高山西高校の夏はまだまだ続き、生徒たちは青春を謳歌することでしょう。高山西で過ごすこの夏が、有意義で楽しくあることを願います。

（文化委員長）

西高体育祭

スローガン

『成瞬応勝』（せいしゅんおうか）

令和8年 6月16日(火) 開催

赤団

団長
中田 慎之介
（3H）

私は、高校生活最後の体育祭で赤団の団長を務め、総合優勝を勝ち取ることができました。目標のために団員それぞれの役割があった中で、その役割を一人ひとりが全力で取り組み最後まで尽くしてくれたからだとおもいます。応援練習で、全力で声を出してくれている姿や一生懸命踊りを覚えようとする姿から力をもらい、私自身も頑張ることができました。こういった他学年と共に一つのものを作り上げること、その先頭に立ってまとめるこの経験は、私自身の大きな成長になりました。この体育祭を通して学んだ仲間と協力し挑戦すること人のために行動する優しさを持ち続け学校生活や将来に向けて活かしていきたいです。

青団

団長
枡田 爽良
（3I）

私は高校最後の体育祭で青団の団長を務めました。最初は不安な事が多く団をしっかりまとめることができるか心配でした。団練習が始まってから長時間の練習で気温も高く、最初はなかなかうまくいかず悩むこともありましたが、団幹部の言うことを嫌な顔せずしっかり聞いてくれて取り組んでくれ、どんどん良くなっていく姿にとても感動しました。迎えた本番では、全員の声がかれるくらい全力を出し切り、一体感のある美しい演技ができたこと、競技では全員が勝ちたいという気持ちがぶつかり白熱した競技ができたことにみんなに感謝しているし誇りに思います。高校最後の体育祭で青団の団長をやらせていただいたことが忘れられない思い出になったし、幸せでした。この経験をこれからの残りの学校生活に活かして過ごしていきたいと思います。素晴らしい体育祭にしてくれて本当にありがとうございました！

黄団

団長
野﨑 凜太朗
（3K）

私は今年の体育祭で団長を務め、1番力を入れていた応援で優勝することが出来ました。最初は団を上手くまとめきれず、他の団に遅れをとっている状態から始まりましたが、団幹部をはじめとする、黄団の一人ひとりが力を合わせてくれたことにより、本番に向かうにつれてだんだんと団の一体感を感じるようになりました。そして、本番ではこれまでで1番素晴らしい演技ができ、優勝した瞬間の嬉しさは忘れられないものになりました。

競技は最下位と残念な結果でしたが、黄団のみんなは一生懸命に楽しく全力でやっていて、それをみんなで本気で応援していました。そんな姿からも、黄団の一体感を感じられて、たとえ最下位でもみんなの記憶に強く残った体育祭だったと思います。去年の私の担任に、「記録じゃなくて記憶に残る人に」と言われたのを思い出し、その意味を実感しました。

人の上に立って行動するという事は、責任を伴います。そんな機会を与えてくれた黄団のみんな、本当にありがとう！